

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4371200082		
法人名	特定非営利活動法人 憲友会		
事業所名	グループホーム さち		
所在地	熊本県上天草市大矢野町上字西大平7314番地		
自己評価作成日	令和6年 9月 23 日	評価結果市町村報告日	令和6年12月 5日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

設立当初から、入居者とその家族、施設職員を大きな家の一員として生活している。「ただいま」「行ってらっしゃい」「気をつけて」が挨拶です。食事の内容も地産地消で季節の旬の野菜や魚介類を使用し献立を考えて提供している。それから施設の裏の畑には無農薬野菜を栽培しており、その野菜を使用し調理し、入居者の皆さんには好評を得ている。園庭や各部屋から眺めることができる裏には芝生を植えており、表側の玄関近くには赤いハイビスカスが咲き乱れ、裏側には赤やピンクのバラが咲きほこっている。施設の居間や食堂、入居者の部屋からは青い海や緑の島々が見渡せ、入居者やご家族、訪問される方々より景色が綺麗だと喜ばれている。施設の玄関の鍵は施錠せず、夏場の涼しい季節は全室窓を開放し、自然の風を肌で感じることができるようになっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

昨年度から今年にかけて職員交代や看護職の入職等があり、衛生・医療面、また日々の記録や介護計画等が充実し、職員面談でも、話し合いながら業務の改善やケアの充実に取り組まれてきた様子が聞かれました。入居者の日々の生活は従来と変わらず、皆さんの穏やかな様子は職員の落ち着いた支援を見るようで、生活そのものを感じる事業所です。食事は今も職員による手作り、身近な材料を使った馴染みのある家庭の味付けで喜ばれています。現在の入居者は比較のお元気で、一緒に掃除をしたり、草取りをする姿もあり、お饅頭作りの際は「私もできるよ」の声が聞かれたそうです。基本理念の中にも「家庭的な雰囲気」とありますが、支援の充実により、安心安全な生活の提供が行われていると感じる事業所でした。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和6年10月17日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度
			3. たまにある			<input type="radio"/>	3. たまに
			4. ほとんどない			<input type="radio"/>	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が			<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回開催されている定例ミーティング内で、理念を再確認する時間を設け、事業所内で実践している。	開設以来の理念はパンフレット等にも記載され、職員・入居者だけでなく地域にも啓発が続いている。毎月開催しているミーティングには短時間勤務の職員も参加し、毎回理念の再確認の機会を作っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民や近隣の方々による訪問、ボランティア活動による交流の機会があっている。	コロナ5類移行後、以前のような地域行事の開催や事業所行事への参加、地域住民である入居者家族や知人来訪の姿に戻った。子どもの祭り行列来訪の際には入居者も賽銭箱に小銭を入れる等交流の機会もあった。運営推進会議でも地域との活発な意見交換が見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	業務の中で認知症の入居者に対する対応を学び努力しながら、また近隣の方々に理解や協力を得られるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で検討した項目については、毎月定例会議の中で報告し、職員の資質の向上に取り組んでいる。	隔月開催の運営推進会議では、事業所の取組みや現状の報告だけでなく、地域の防災について等、事業所・地域・行政を交えた意見交換を行っている。事業所の現問題点も明確にし意見をj得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所として業務中での疑問点や、定例会議で取り上げられた問題など、必要に応じて行政の担当者に質問する等、回答を求めながら協力関係の構築に努めている。	日頃から必要に応じた相談や連絡等を機会に担当者との協力関係を築いている。運営推進会議にも毎回参加があり、事業所の取組みや課題等を伝え共有している。行政で開催される研修にもできるだけ参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会議や、身体拘束実行委員会などで学ぶ機会や話し合いの機会を設け、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束をしないケアを実践している。毎月の研修計画では3ヶ月に1回身体拘束についてのテーマを設け、身体拘束実行委員会や毎月のミーティングでも振り返りや学びを重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を職員全体で周知し、虐待防止に取り組んでいる。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度を利用されていた方を担当するなど、一連の知識を有しており、日常生活自立支援事業の内容を学ぶための研修に参加しており、理解はあり必要時は活用できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約時に内容をきちんと説明し、理解を得たうえで契約できるよう配慮している。また契約内容の変更時も、同様の事を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の意見に耳を傾け、毎月の定例会議時に要望を職員に伝え、検討する機会を設けており、また入居者に対しては日常生活・介護の場面でその入居者の希望に添うように努力している	入居者の家族・親族や知人、地域住民等の面会・来訪もよく見られ、来訪の際には職員からも声を掛け、意見を表しやすい関係作りに努めている。運営推進会議にも家族代表が参加し意見をj得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議で職員の意見や提案を聞き、皆で検討し話し合い、業務に反映している。	昨年度より職員の増員もあり、意見や提案も見られる。毎月のミーティングでも意見を検討・話し合い、業務改善や充実に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全スタッフが働きやすいような環境を提案し、それぞれの個人の実績に合わせて判断するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会議で、必要な学習の項目を設けてスキルアップできるようにしている。外部研修に対しても同様である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連携会や研修の機会に参加し、ネットワークづくりを行い、サービスの質の向上に努めている。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の方が不安無くが安心して生活できるように、思いを傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に同席し、家族の意見や思いを尊重し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者と家族のニーズに即応したサービスが実践できるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の状況をしっかりと把握しながら、入居者が得意とする家事(調理のお手伝い、衣類整理、食後の後片付け、掃除)を任せることで、職員との信頼関係が築けるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と連絡を密に行い、入居者の把握した状態を伝えて、共に本人を支え合うよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に住する友人や親せき、知人等が気軽に面会できるような環境を提案している。	殆どの入居者は地域からの入居であることから面会もよく見られ、事業所とも家族のような関係が見られる。事業所からは昔からの馴染みある海を臨むことができ、草取りや干し柿作り等、生活面でも以前からの「生活」を大切にした支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人との交流がスムーズにできて楽しく過ごせるように配席などを考慮して、環境を整えている。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族や本人が必要としていることを支援できるように配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人のこれまでの生活が継続できるように、職員間でも情報を共有しながら、支援できるようにしている。	入居者それぞれの生活歴を大切にしながらの日頃の会話等から思いや意向を把握し、支援に繋げている。掃除や草取りが好きな方もおられ、手伝う姿も日常的である。訪問時は、入居者の趣味の実現について検討をすすめているところであった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、かかりつけ医や在宅時等の担当ケアマネに情報を求め、今までの生活状態を把握できるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員で情報を共有しながら、本人の元々の性格や趣味などの情報を得て、一日の生活状況を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時にアセスメントを行い、意見や要望を聞いている。また職員からも情報や意見を求めたり、支援経過から問題点を把握し計画をたてている。	家族面会時に家族より情報を得、入居者の日々の記録、職員の意見をもとに作成している。職員間で記録等業務全般に対し意見を出し合える環境となっており、見やすく分かりやすい、また現状に即した介護計画や記録作りがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況の記録を怠らず、問題点は皆で話し合い検討することで、実践計画やプランの見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内の家庭的な雰囲気や崩さないように、また家族や本人の意見も尊重しつつ、要望に応じたサービスが生活ができるように創意工夫している。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民参加による支援に努められるように努力している。特に運営推進会議への参加をして頂くなど行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃から家族と本人の意見を尊重したうえで、看護職員とケアマネを通じて、医療的な支援を提供できるように支援している。	入所前からのかかりつけ医の受診を支援しており、現在は往診も多い。定期通院や体調不調での通院はできるだけ家族の協力も依頼し、難しい場合は職員が付き添う。看護職の勤務により医療との連携も充実している様子が聞かれた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気づいたことは即、看護師に相談しつつ、看護師から適切な処置を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院内の地域連携室の担当SWIに情報を提供している。また退院時はカンファレンスの開催、もしくは退院時のサマリーを求め、退院に備えた連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居、契約時に看取りについての説明を行ったうえで、本人と家族の意思を確認し契約を取り交わしている。また看取りを行う場合においても、必要な医療機関などの地域との関係者ととも、チームを組んで取り組んでいる。	契約の際に看取りについての事業所の対応を説明している。事業所開設以来、看取りを経験した職員も多くなり、家族・医療機関等と連携・協力し支援を行っている。看護職の入職もあったことでの職員間の連携も充実した。家族へも声をかけ共に時間を過ごして頂く様子も見られる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から事故発生時の対応について定例会議において、学ぶ機会を得ている。発生した場合にはマニュアルに添って行動している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署の署員の立会いのもと、職員及び入居者が参加し避難訓練実施している。またBCPIに基づき災害発生時の対応方法や、避難場所など確認し緊急時に備えている。	管理者を主とし消防署立ち合いで訓練を行っている。今年度は地震を想定し、入居者と共に避難の訓練を行い、消防署から講評を得た。職員全員参加で緊急蘇生の研修も行った。BCPIについては運営推進会議にて地域や行政にも説明を行っている。	運営推進会議でBCPIに関する説明を行う等、地域を交えて防災意識が高い様子が見え、うかがえました。火災だけでなく、自然災害を想定した訓練も行われています。今後の課題共有や職員入職・職員共有に備え、写真等による訓練の記録も必要と考えます。

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し親切で丁寧な介護に努め、本人のプライバシーを損ねないように支援している。	年間計画のもと定期的に職員研修を行っており、現状心配な事例はない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや願いを自由に表現できるような環境を提供している。常に傾聴できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の立場で考え、その人が望む生活が出来るように職員間で話し合い検討し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝のモーニングケア時におしゃれが楽しめるように支援している。清潔保持ができて、入浴後は爪や皮膚の手入れを行い、2か月に1回は美容室の訪問を依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	園で栽培した手作りの無農薬野菜を使って調理したり、地域で採れる魚介類などの食材を使用した献立を考え調理し、家庭的な食事を入所者と職員に提供している。	開設以来、地元の食材をふんだんに使った職員手作りの食事を提供している。季節のおやつは入居者も時には一緒に作る時もあり、干し柿作り等も楽しみとなっている。事業所の菜園や家族・地域等からの頂き物もあり、身近な食材での家庭料理が楽しみとなっている。	地元の食材で馴染みある味付けは入居者の喜びとなっている様子が窺えました。訪問日の昼食の際、職員より入居者への声掛けもみられましたが、椅子に座って、テーブルを共にし一緒に時間を過ごすことでより家庭的な雰囲気となるように感じました。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事形態で、また必要なカロリーや水分を考慮し、おやつや食事時に摂取できるようにしている。また食事方法も、本人が食べやすい姿勢など検討し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の食前や食後に口腔ケアを実施。支援が必要な方は洗面所まで誘導し、個人に合った口腔ケアを行い、口腔内が清潔に保持できるようにしている。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握し、失禁を予防できるように、早めにトイレ誘導やオムツ交換を行っている。	入居者の状況それぞれに応じた対応を行っている。現状は昼間はできるだけ自立に向けた支援を行っており、夜間は介助の回数も増える。自立の方にも心配がある際にはリハビリを使用する等、個別に対応を検討し支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握したうえで、必要時は医療機関に相談し、定時の下剤などの処方相談し、処方をお願いしている。また排便がスムーズにできるように、繊維の多い食材など使用し調理したり、おやつ時に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴が定まっているが、本人の希望や状況に応じて入浴できるように工夫している。	週2回を基本としている。現在は入浴曜日が決まっていることから、必要な際には清拭やシャワーにおいて清潔保持に努めている。	清拭やシャワーも利用し清潔保持には努められている様子が聞かれました。職員体制も難しい場合もあるかと思いますが、お湯張りの日時を含め入浴希望や体調を考慮し、入居者それぞれにそった支援ができることに期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が横になりたい、休みたいなどのときには休めるように、心地の良い生活が出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理を行い、必要なことは医療機関や薬局に相談している。また他の職員も薬の内容を周知できるように連携を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生きがいのある生活が持てるように、できることの支援(調理、掃除、衣類整理等)などの手伝いを依頼している。また毎日2回のおやつ時には、入居者が好きなものを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て、入居者に負担の無い外出(病院受診や外食、法事や小旅行)をお願いしている。また体調を考慮し、近隣への散歩をお願いしている。	家族の協力もあり、墓参りや自宅宿泊、病院受診等がみられる。気候が良い時期には近隣の散歩も行っている。	

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内での金銭の預かりは無い。しかし生活に必要な物品などの購入があれば、家族の同意を得て買い物の代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはその都度行っている。手紙などを出したい場合には、ポストへの投函の依頼を受けたり、施設に届いた手紙は確実に本人に手渡し、必要時は代読も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間で安心して生活できるように、季節や時間に応じた環境を提案している。	事業所内外の掃除が行き届いており、心地よく過ごすことができる。庭には季節の花が咲き、畑では季節の野菜・果物の収穫もみられる。事業所内は毎日職員時には入居者も一緒に床拭きが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で個人々がリラックスできる時間を過ごせるように、環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室内には本人が自宅から持参した思い出の品や写真など、いつでも見ることができるよう装飾し工夫している。	居室には押入れがあり清掃も行き届いていることから、安全で清潔に心地よく過ごすことができる。家族との関わりを感じることで飾りがなされ、カウンターテーブルも備わっていることから、書き物等、思い思いに過ごすことができるスペースもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力に合わせて、生活リハビリや運動が出来て、自立した生活が出来るように支援している。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームさち

令和 6 年 12月 5 日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	各地で災害が発生しているが、実際に災害発生場面に直面したことが無く、緊急時の対応が懸念される。	災害発生時において、いかなる時も安全に、尚且つ迅速に非難する。	今後も定期的に災害時の避難方法等学んだり、訓練を行い避難時に備える。	12ヶ月
2	40	地産地消の野菜や魚を使用し調理し、美味しく家庭的な食事を提供しているが、楽しく食べることの課題が残されている。	家庭的な雰囲気の中で、楽しく食事が出来るように努める。	食事時には、職員も入居者と一緒にテーブルを囲み椅子に座り、家庭的な雰囲気の中で食事が出来るように支援する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。